特別座談会「考える楽しみを語る」

世の中を楽しくさせる商品やサービス、ビジネスモデルなどを高校生の視点から提案する「全国高等学校ビジネスアイディア甲子園」第13回大会の最終審査・表彰式を前に座談会を開催しました。

出席者は「第12回全国高等学校ビジネスアイディア甲子園」でグランプリを受賞したグループの代表者と指導教諭、本学が実学教育の一環として「ビジネスアイディア甲子園」をレベルアップした形で学内開催している「第11回大商大ビジネス・アイディアコンテスト」で東大阪商工会議所会頭賞受賞者とその商品化をバックアップした企業人の４名に集まってもらい、谷岡一郎学長とともにビジネスアイディアを考える楽しみや意味について語り合いました。



日常の疑問、不便をきっかけにどんどん発信、アドバイスが力

学長：早速ですが、田代君の作品「マグネット反射ワッペン」はいつ、どのような形で考えつきましたか？

田代：去年の５月ごろのことですが、ビジネス・アイディアコンテストにどういう作品を応募しようかと考えていた時に、自動車免許証の更新講習があって「高齢者の事故が多発しているので、気をつけてほしい」という話を聞いたんです。その時「何とか事故を防げないものかなあ」と考えたのがきっかけです。その後、コンテストの１次審査を通過し、ブラッシュアップ講座に原専務が講師として来られていたので、いろいろと相談しました。

学長：野沢君の、風に飛ばされにくい皿「エアロディッシュ」の場合はどうですか？

野沢：はい、私は自分の体験からなんですが、普段からバーベキューをする時、お皿が風で飛んでしまうのに困っていたので「みんなも困っているはず」「何とかならないかな」と思いました。

学長：でも、困るのはみんな一緒でも「じゃあ解決策を」とは、なかなかならないですよね。

野沢：夏休みで、みんな集まっていたので「アイディアを出し合えばできるんじゃないか」と考えました。ちょうど、アイディア商品のことを考えていた時期でもありました。

学長：小久保先生にはかなり相談しましたか？本番のプレゼンテーション自体も、とても素晴らしかったと印象に残っています。

小久保：いつもならパワーポイントを使ったスライド形式の発表が多いのですが、風で飛んでしまうという「動き」があるのだから、実験段階も含めて、今回は動画でやってみようか、というアドバイスはしました。

学長：テレビ番組で放送されてからは、話題になったのでは？アウトドアの盛んなアメリカでも需要が多いのではないかなと思いますね。

野沢：評判はよかったですし、商品のことをよく知ってもらうことができました。ただ、まだ生産量が少ないので、価格を低く抑えることが難しいという問題があります。来年には、生産量も増える



大阪商業大学
たにおか いちろう
谷岡 一郎 学長

主な著書に『ツキの法則』（PHP出版）や『データはウソをつく』（筑摩書房）など。



愛知県立
豊橋工業高校 卒業生
のざわ しょうた
野沢 祥太 さん

仲間４人とともに応募した「第12回全国高等学校ビジネスアイディア甲子園」でグランプリを受賞。現在、会社員。



愛知県立
豊橋工業高校 工務主任
こくぼ としや
小久保 寿也 さん

模型部の顧問も努める。同校は1944年に開校。卒業生は２万人を超える。

のでコストダウンが可能になると思います。そうするともっと買ってもらえるだろう、と期待しています。

学長:原さんは、田代君のアイディアにかなり、ダメ出しをしましたか？

原：まず「可能性はあるな」と感じましたね。後は、どうアレンジしたらいいのか。私が全部考えてしまってはいけないので、田代君とは計11回、打ち合わせをしました。

学長：小久保先生は、いかがですか？

小久保：学校では、班別になってグループワークで授業を進めています。生徒たちのアイディアをそのまま形にしました。基本的なイメージは変わっていません。

学長：商品化するとなると、コストも考えなければなりませんね。

原：打ち合わせを重ねてアイディアを突き詰めていくと、自動的に商品化へ導かれます。当社では年間40～50件の新商品を出しているのですが、その都度、あらゆる課題をクリアして、ここまでやってきました。ただし、値段の壁はデザインの壁である、ということは確かに言えると思います。

学長：田代君や野沢君は、どのような時にアイディアが浮かんできますか。

田代：私は日常的な出来事の中からアイディアが出てきます。考え込んでしまうとダメです。不満に思った時に、その不満を解消できないか、という感じでしょうか。答えを探すと、まず見つかりません。

野沢：私も日常生活の中で、アイディアが浮かんできます。それと、自分の考え方を周りの人に聞いてもらいます。

学長:私が学生によく言うのは「考える癖をつけていない人は、アイディアを持っていても、チャンスを見逃してしまう」ということです。体験の中で不便に思ったことがあったら、メモを取る。そして実現・発表につなげていく。考える癖をつけるため、1日に1時間は携帯電話やスマートフォンの電源をOFFにする。風景を見てもいいし、電車の中を観察してもいい。それを繰り返すことでチャンスをものにできるんです。

原：私たちの会社は99カ所に「どうかな」と疑問符がついても、1カ所に魅力がある、あるいは光るところのある商品を追いかけていく方針を持っています。年間何百件というアイディアの持ち込みがあり、それぞれが可能性を秘めています。

小久保：授業では、考える力を伝える力につなげるように訓練しています。もちろん授業なので一定の強制力があって、私は「1週間に一つはアイディアを提案しなさい」と指導しています。

原：アイディアというものは、生徒たちは実は既に持っていると思うんです。つまり可能性を持っている。恥ずかしがるのではなく、みんながいる前でそのアイディアを発表する。そうした試みが、次世代の田代君たちを生んでいくはずです。

野沢：私もアウトプットしていく場が重要だと考えています。そうするとさまざまな視点からのアドバイスがもらえます。

田代:私は3年間、大学ではさぼってばかりでしたが、受賞を機に「頑張れば、その分成長できる」と考えられるようになりました。今後もどんどん成長していくことができると思っています。

学長:若い時の失敗は、何度したっていいんです。失敗の重なりが、いい顔を作ると私は考えています。逆に1年間、失敗がなかった人には「チャレンジが足りないよ」と言いたいですね。今、はやっているNHKの連続テレビ小説「マッサン」ではないですが「やってみなはれ」の精神が大事です。人はいくらでも変わっていくことができます。変わる努力をしましょう。そのきっかけが、全国高等学校ビジネスアイディア甲子園であったり、大商大ビジネス・アイディアコンテストであったとしたら、これほど幸せなことはありません。



大阪商業大学
経済学部経済学科4年
田代 翔太（たしろ しょうた） さん

「第11回大商大ビジネス・アイディアコンテスト」で東大阪商工会議所会頭賞、10月に開催された今回のコンテストでは学長賞を受賞。



旭電機化成株式会社
専務取締役
原 守男（はら もりお） さん

会社は1950年設立。SMILE KIDSマークをキャラクターに、自社オリジナル商品の開発に取り組む。

第12回全国高等学校ビジネスアイディア甲子園
グランプリ受賞アイディアの商品化取組

愛知県立豊橋工業高等学校
グループ名：豊橋工業課題研究班３
伊藤友一、野沢祥太、小川卓哉、影山裕紀、大羽巧也
アイディア名：「BBQ を便利にするアイデア」
商品名：風に飛ばされにくい皿「エアロディッシュ」






アイディアの誕生から商品化までの経過

平成 25 年 4 月	課題研究の授業スタート
平成 25 年 4 月～ 7 月	生徒が毎週１案を提案、班員で内容を検討し改善
平成 25 年 7 月	発案アイディアの資料作成（Word・Power Point）
平成 25 年 7 月～ 8 月	夏季休業中、アイディアの試作と実験
平成 25 年 9 月	試作と実験をもとに資料を追加 「全国高等学校ビジネスアイディア甲子園」へ応募
平成 25 年 10 月～ 12 月	「全国高等学校ビジネスアイディア甲子園」最終審査用プレゼンテーション資料作成
平成 25 年 12 月 14 日	第 12 回全国高等学校ビジネスアイディア甲子園 グランプリ受賞
平成 25 年 12 月	豊橋市、地元大三紙業と連携し商品化の取組スタート
平成 26 年 1 月 30 日	最終的なデザインの決定 型の製作、試作、製品製作、パッケージングの検討
平成 26 年 3 月 20 日	生徒５名と大三紙業株式会社と最終打合せ
平成 26 年 8 月	風に飛ばされにくい皿「エアロディッシュ」が中部地区で販売

多くのメディアから紹介されました



◇新聞◇

平成 25 年 12 月 14 日	中日新聞東三河版
平成 25 年 12 月 17 日	中日新聞東三河版
平成 25 年 12 月 18 日	東日新聞社会面
平成 25 年 12 月 19 日	東愛知新聞社会面
平成 26 年 7 月 15 日	毎日新聞

◇テレビ番組◇

平成 26 年 1 月 17 日	テレビ東京　ワールドビジネスサテライト「トレンドたまご」
平成 26 年 4 月 11 日	NHK ニュースおはよう日本「情報まちかど室」
平成 26 年 5 月 17 日	日本テレビ「世界一受けたい授業」
平成 26 年 7 月 7 日	CBC テレビ「イッポウ」
平成 26 年 8 月 8 日	中京テレビ「キャッチ」